

ジェンダー・コロキアム 2017

■会場■
滋賀県立
男女共同参画センター
“G-NETしが”
研修室A

■日時■
3月19日(日)
13:30~16:30
(受付13:25~)

■定員■
30人
(先着順、参加無料)
■申込み■
FAX、メールで
お申し込みください。



ぜひ来てね。

滋賀県立大学・京楽研究室の学生による
女性史をテーマにした卒業論文の発表を行います。

コロキアムとは: Colloquium
参加者全員で一緒に討論する
会のことです。

本セミナーはG-NETしが
推進員、しが WO・MANネット
団体研修会と兼ねています。



滋賀県立男女共同参画センターでは、これまで滋賀県立大学
京楽研究室と協働して卒業論文発表会を開催してきました。
今年は6名の学生の皆さんが、それぞれの研究の成果をまとめた
卒業論文を発表します。(内容は裏面参照)

この機会に「女性史」や「ジェンダー」について話し合いませんか。

■問い合わせ・申込先■

〒523-0891 近江八幡市鷹飼町80-4

滋賀県立男女共同参画センター“G-NETしが”

Tel ▶0748-37-3751 Fax▶0748-37-5770

E-mail▶g-net@pref.shiga.lg.jp

* 託児(無料、定員あり、対象年齢 6か月~就学前)
を希望される場合は、1週間前までにお申し込みください。



G-NETしが
滋賀県立男女共同参画センター

ジェンダー・コロキウム発表内容

《修士論文》

■「斎王退下の作法 - 難波津御禊・唐崎御禊と解斎の構造をめぐって - 」

日本古代において、天皇の娘や孫娘が斎王（伊勢斎宮と賀茂斎院）となり、神に奉仕したことはよく知られています。では、その斎王たちが任務を終えた時、どのような作法を経て日常に戻ってきたのでしょうか？賀茂斎院の場合、キーポイントは琵琶湖畔の唐崎での禊（みそぎ）でした。

《卒業論文》

■「平安貴族の婚姻と居住 - さまざまな後見関係 - 」

かつては、結婚したら夫の両親と同居するのが一般的でしたが、今は大半の新婚さんが独立して暮らします。実は、平安時代でも夫婦が親とは別の家で生活をする場合があります。その家は、誰が用意したのでしょうか？それを平安貴族の人間関係から解き明かしていきます。

■「平安時代における乳母子の活躍」

子どもは母親が育てるものだ、という言葉は、日本の歴史では通用しません。支配者は、子育てを乳母に任せていました。その絆は血縁以上で、親兄弟で殺し合いをした時代でも、乳母と乳母子だけは、最後まで主君を裏切らなかったほどです。その乳母子について、平安文学での活躍を明らかにしていきます。

■「近世社会における公娼制度の構造 - 彦根藩を事例にして - 」

江戸時代には遊郭があった、ということをご存知でしょう。そこで性を売る遊女たちは、幕府や藩によって管理されていました。彦根藩の場合、朝鮮通信使が彼女たちの様子を記録しています。残された少ない史料を駆使して、彦根藩内の遊女の実態を明らかにしていきます。

■「婦人雑誌からみる家庭料理」

家庭という言葉は、近代になって生み出された言葉です。そこには、「明るい」とか「暖かい」というポジティブな形容詞が付けられました。こうあるべき、という理想の家庭像が提示される中で、料理はどのように位置づけられていたのでしょうか？当時の女性雑誌の記事から考えていきます。

■「日本近代における職業婦人の労働環境 - 婦人雑誌からみる電話交換手の実態 - 」

日本の近代化の過程の中で、電話が普及していきます。それに携わる職業も新しく生み出されたわけですが、電話交換手は女性にふさわしい職業だとされました。それはなぜでしょうか？彼女たちの労働条件は？女性の活躍推進が目指される今だからこそ、かつての職業婦人たちの実態に迫りたいと思います。